

# 「幸福」の条件

企業経営漫談士 岡野実空

“Happiness”の翻訳語として我が国に登場した「幸福」という概念。それはまだ大多数の人々が貧しく、豊かになるという明確な目標を追いかけ始めた文明開化の副産物でした。そして「脱亜入欧」の100年を経て、多くの人たちがそれを享受できるようになったものの、カネやモノは「幸福」の必要条件にすぎないことを実感した次の50年。以上の経過を踏まえ、今回のコラムでは、主に「カネ」「コト」「ヒト」の3つの切り口から、「幸福」の必要条件と十分条件を考えます。

## 条件1:「カネ」

貧しいとき、「カネ」は目標。生きるために、まずそれを稼がなければなりません。またそれは得たと同時に手段に転じ、食・住・衣などの「欲望」を満たしてくれます。それまで豊かさを知らなかった我が祖先たちは、文明開化によって「欲望」というパンドラの箱を開けてしまいましたが、幸いにも「カネ」の多寡でヒトの値打ちを決めるといふ欧米の風習は長らく根つきませんでした。

その流れを変えたのが、昨今の「グローバル化」。それを「グローバルズム」と区別できない経済人が増殖し、劣化した政治家の強力な支援を得て、「カネ」を目的に戻しています。「幸福」の必要条件の一つに過ぎない「カネ」を、十分条件とも考えている彼らは、精神的に貧しい「カネ」持ちなのです。

## 条件2:「コト」

産業革命がもたらした「モノ」の豊かさは、劇的に私たちの生活を快適にしてくれました。しかし一旦それが日常的な存在になると、私たちはその有難みを感じなくなります。それどころか、故河合隼雄先生が早々に警告したように、その豊かさはヒトの悩みを増す要因ともなっていました。

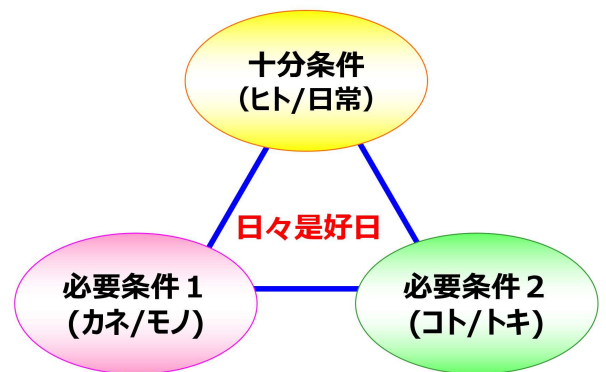
その後それにとって代わったのが、さまざまな体験という「コト」。例えば、経済的に豊かになった人々が旅に出るのは万国共通です。そしていま、その日常化に伴って注目を集めているのが「トキ」。しかしそれは、「感動」や「癒し」という「コト」の「希少性」による再評価にすぎません。いずれにせよ、「モノ」や「コト」の豊かさ、日常化すれば自分の「幸福」の増大にはつながらないのです。

そこで浮上するのは、他人から必要とされる「コト」や「トキ」の提供。それはその行為をつうじて周囲から感謝や評価を受け、自らの存在意義を確認するという社会的報酬による「幸福」です。

## 条件3:「ヒト」

以上のように「幸福」の条件は、最終的には日常の生活や活動の「ヒト」に関することに引き着きます。具体的には、自分の心身の「健康」を原点とした、周囲との良好で充実した人間関係です。

KM E-7 「幸福」の条件



いまそれを保全するための「働き方改革」の議論が一向に盛り上がりがないのは、その旗を振る経済偏重のトップ層に、その対象である「ヒト」の真の「幸福」という視点が欠けていること。すなわち旧来の価値観から抜けられず、日々の生活やヨコの人間関係から得られる、「感謝」や「友情」という「幸福」の十分条件が理解できないのです。

私が企業の幹部育成に関わるようになってから、一貫して現役での「巡礼」や「遍路」を推奨してきたのは、その十分条件を体感していない人間が組織の上に立つと、多くの人を不幸にするからです。

西国三十三所巡礼第32番札所、近江の観音正寺。その本堂への急な参道は、人々が途中33の掲示板の要所で足を止め、自分の人生を振り返りながら息を整える「ことわざのみち」。

最後に、その中から「幸福」に関する3つをご紹介します。

24. 最も幸福な人はいつも行動している人である。
25. 友情は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする。
32. 人はあるものを粗末にし、ないものを欲しがる。

一言でいえば、「日々是好日」。

2019年6月3日 実空